

令和元年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 内閣総理大臣賞受賞

# 人口が減るからこそ豊かになるまちづくり

岩手県陸前高田市 特定非営利活動法人SEET

## 実績概要

事業を連携させることで、年間2000名以上の若者を陸前高田市広田町（公共交通機関はほばない。新幹線の最寄駅である一関駅から電車などで、2時間で隣町まで来られるという不利な立地条件である）に継続的に誘致し、月に一度以上通い、活動をする若者が80名弱いる。そのメンバーたちが複数のチームで活動をしているため毎週末必ずメンバーが東京から広田町に訪れ、地域の方との交流や中高生とのワークショップを行っている。また現地に移住して活動する若者が20名以上いる。交流人口から、活動人口、そして移住者へとつながる全国的にあまり類を見ないモデルを創り出した。また、約3000人の町で800人以上の住民が当法人の活動に参加し、まちづくりを行っている。中



町の中高生が町への思いや自身の夢を町の皆さんに発表した時の様子

でもSEETに理解あるコアな町民の方々と3ヶ月に1回会議を開催し、SEETの行った活動の報告・相談、また町で活動するメンバーの様子や評判など、町の方だからこそ持てる視点からSEETの運営を補っていただいている。メイン事業以外にも、地元の方主催の古民家美術館やカフェ開業など、大小含め年間約150の様々な取り組みが行われている。

加えて、震災復興に関する全国放送のラジオ番組にも多数出演するなど外部への発信も積極的に行ってきた。

## メイン事業詳細

### ■「修学旅行民泊」

「外から人を連れてきて、この町の暮らしを体験してほしい」という地元住民の声がきっかけとなり、全国の中学・高校の民泊修学旅行を市や他団体と協働で誘致し、広田町での受け入れを行う民泊事業を実施している。地元住民と外部の者の交流機会の創出、住民の現金収入の増加、将来的な移住定住者の獲得を目指して実施している。また、受け入れ家庭の中には自ら震災当時の話を生徒たちに聞かせている家庭もあり、防災教育にもつながっている。陸前



高田市での民泊は2016年より開始し、初年度で岩手県最大の320名規模の学校の受け入れを行った。市全体として、2018年度は1500人が民泊で訪れ、2019年度は4500人の受け入れが確定しており、東北で最大人数の受け入れとなる予定である。

#### ■「高田と僕らの未来開拓プロジェクト」

「震災で外の人にお世話になったから、私たちが町のために何かしたい」そんな高校生の想いを聞かせてもらったところから、この活動はスタートしている。活動を進める中で、中高生は自分の将来に対しネガティブなイメージを持ちがちであるという課題感が見つかった。そこで、多様な世代の人とつながり・交流しながら、自らの将来の選択肢と目指すビジョンを「開拓」し、主



CMSP、町民と一緒にアクションを実行した様子

体的に活動する機会を提供することで、中高生の自己肯定感が自然と育まれる地域「陸前高田」を目指していく。

今までに陸前高田の中高生53名と関東圏の大学生47名が企画メンバーとして28個以上のプロジェクトを実行し、中高生468名が参加者として全面に携わってきた。成果として、地元の高校を卒業し県外の大学に進学した者のうち、5名が当法人のメンバーとして、現在も継続的に地元のために活動している他、地元の高中生からの声をきっかけに、震災で使えなくなっていた地元の浜や、仮設住宅の清掃活動なども行ってきた。現在では事業担当者が小中高のコーディネーターに就任し、学校との連携も強化している。

#### ■「Change Maker Study Program (CMSP)」

春、夏の長期休みに大学生を160名ずつ募り、町の方と共に1週間でまちづくりへのアクションを行うプログラムを運営している。大学生たちのまちづくりへのハードルを下げることに寄与しており、参加者のうち3割弱がSEITに加入、定期的に広田町に通うようになる。現在ではスタッフメンバーが半年の任期で8チーム60人弱が編成され、チームごとに毎月広田町に訪れる。町の方々と交流を重ね、当団体に関わってくださる方々の裾野を広げるとともにすでに関わってくださっている方々のコミットメントを高める動きをしている。

また、プログラム経験者が、他のプロジェクトを企画する機運も醸成している。

町の人との関わりの基盤がこのプログラムでできることで、多くのプロジェクトが実際の町の人とリンクしながら実現することが可能になっている。高田と僕らの未来開拓プロジェクトは地元の中学生の声を元に、民泊事業は地元の方の声を元に、それぞれの試作がCMSPのプログラム内で行われた。

#### ■「Change Makers College (CMC)」

広田町に4ヶ月間滞在し、人口減少社会に対して「人口が減るからこそ豊かになる」という考え方や価値観、その人間観から生まれる人口減少社会のリーダーシップを育成する4ヶ月の移住留学型事業である。デンマークのフォルケホイスコーレと連携している。対象は地域外の若手20〜30歳前後の個人向けであり、地域おこし協力隊とは違った切り口で地域に移住者が一定数継続的に流入し続ける仕組みを創出している。そして、流入した移住者を基軸に一時的な町の方との交流にとどまらず、町の生活に溶け込むことで人口減少社会をより豊かに変えるためのプラットフォームを形成している。

2017年にスタートし、これまでに計20名の若者が移住留学をしており、地元の方の声から生まれたカフェ起業、広田町史上初となる気球を飛ばす企画などを実施した。

(特定非営利活動法人SEIT代表理事 三井俊介)